

奄美市世界自然遺産活用プラットフォーム令和6年度公民連携会議【第2回】 会議録

●日時：令和6年10月30日(水)13:00～16:00

●場所：奄美市役所5階大会議室

●本日のスケジュール

今回も“ありたい姿”
の考え方はこちら！

“ありたい姿”の考え方を統一

**誰もが訪れたくなる島、
いつまでも暮らしたい島**

(奄美大島中長期観光戦略2022-2026)
(一般社団法人あまみ大島観光物産連盟作成)

①前回の振り返り

②ワークショップ

③各班発表

④奄美市政策アド
バイザー岩浅先生
からのアドバイス

⑤個人発表

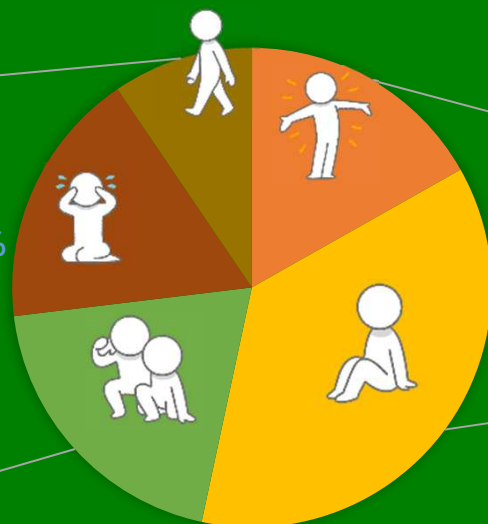
今回のポイント

奄美市民の属性の傾向

つながり隔絶層 9%
(繋がりが希薄)

自分のことで精一杯層 17%
(高くない幸福度)

人助け提供過多層 20%
(圧倒的に助ける側)



**強いつながり
実感層 17%**

**人助け享受層
37%**

多くの奄美市民の参画を視野に入れた提案を！

←馬場座長が実施された『奄美市幸福度調査2023』の分析結果より。

コアメンバーの皆さんの属性はおそらく

「強いつながり実感層」

強いリーダーシップを持つような
方々の存在は実は少数派！

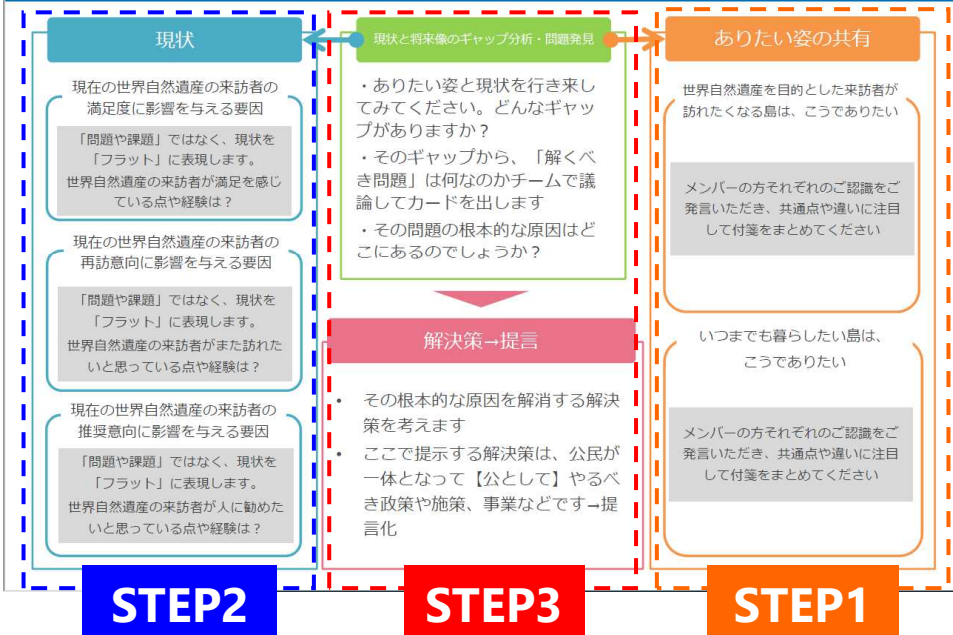
奄美市民の約4割が

「人助け享受層」

主体性はなく、誰かのアクションに
追従するタイプが奄美市の多数を占
めています。この属性の方々の視点を意識しながら議論を進めていきま
しょう。

前回と同様に、ワークショップ開始！

WSのアウトプット



STEP1

将来

「誰もが訪れたい島は●●でありたい」
「いつまでも暮らしたい島は●●でありたい」
(個人の自由な意見出し)

対話を通して“ありたい姿”の意見交換

“ありたい姿” “ビジョン” の共有

メタ的
抽象度高め
↓
対話
↓
具体化

STEP2

現状

“現状について” フラットに現状を表現する。

対話を通して“現状の要因”を意見交換

【満足度・再訪意向・推奨意向】
に影響を与える要因を整理

様々な分野で活躍する
コアメンバーの皆さん。
あっという間にたくさん
の付箋で埋め尽くされ
ました！住民お一人
お一人の目線を意識し
ながら、現状を整理し
解決策の提言を導き出
しました。発表内容に
はたくさんの共感が。



STEP3

分析

STEP2

満足度等に
与える要因
＝来訪者が感じる
ありのままの姿

思いを行ったり来たりさせて
ギャップを抽出

「解くべき問題」
は何なのか？

※解くべき問題が“ない”場合は
ありたい姿・ビジョンのレベルを上げる。

STEP1

ありたい姿・
＝来訪者に実現
してあげたいこと
ビジョン

奄美市世界自然遺産活用プラットフォーム令和6年度公民連携会議【第2回】 会議録

C班

【ありたい姿】

訪れたくなる:「また“あの人”に会いたくなる島」新たな発見・出会いで人生が豊かになり価値観が変わる。歓迎ムード。

いつまでも暮らしたい:身近な自然、助け合い、余裕のある暮らし、便利な交通など安心安全な島。Uターンできる環境。

【現状】交通・多言語対応・空き家等課題はあるが、自然環境は改善傾向の一面も。良好な子育て環境。食、人、多彩な文化等良い点も多い。

【ギャップ分析】空き家はあるが住居不足。情報が錯綜し本質を伝えられていない。環境保全と農業被害のバランス。

【解決策の提言】観光人材育成により賃金が上昇し奄美観光の付加価値が高まる。観光地の分散。情報を一本化情報を発信。他の地域との比較情報も有効か。

欠点ばかりに意識が向かないよう前向きな議論を心掛けました!

B班



B班

【ありたい姿】

「人」が一番の魅力。ゆらい文化。来訪者と住民が尊重しあう関係性。豊かな環境が人々を癒し、満たす。世界に誇れる文化を継承・発信・活用。『田中一村』を文化発信のアイコンに。

【現状】首都圏からのアクセス良好。自然が身近。人が良い。食も◎。自然体験観光が豊富。住民の自然や文化の価値への知識・理解、情報発信、インバウンド対策が不十分。

【ギャップ分析】ゴミ、ロードキル、盗掘盗採等環境課題。学びの機会少ない。発信不足。物語・ビジョン不明瞭。八月踊り等「見せ場」を作る。リピーター対応。まちづくりプロデューサーが必要。

【解決策の提言】奄美を実感できるコト・モノ、見せ場。大学等学びの環境整備。地元住民が奄美の魅力を実感する。

身近過ぎて見えなくなっている島の魅力を改めて掘り起こしました!

A班

【ありたい姿】

訪れたくなる:人、自然、治安。島外にファン多数。

いつまでも暮らしたい:豊かな自然や伝統文化が生活の一部→それらに魅力を感じる観光客とのふれあい→改めてシマの魅力を実感。

【現状】島内交通が不便。観光客と住民のふれあいがニーズに対し不十分。観光客はおろか観光ガイドと住民の交流がなく観光客の要望が届かない。→住民は遺産登録や奄美観光の魅力を実感できていない。住民が島を知らない。集落民より郷友会のほうが多くなり、文化伝承に危機感を覚えつつも日々の生活で精いっぱい。

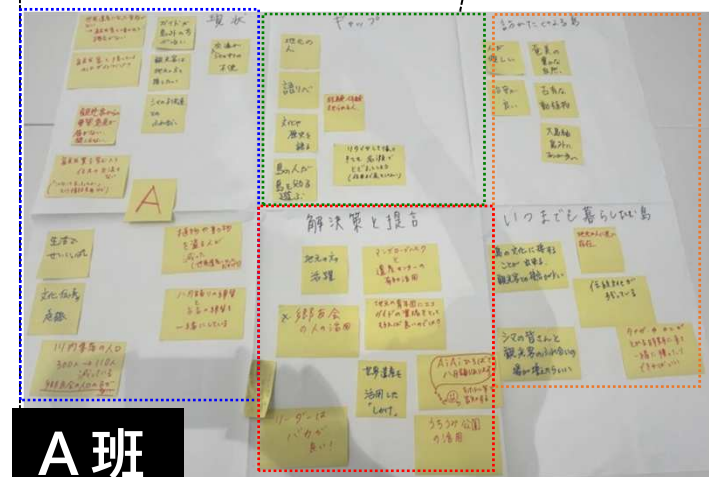
【ギャップ分析】シマに住み続けるシマツチュこそが語り部や案内人としてシマを伝える存在にふさわしい。相互のニーズともマッチする。

【解決策の提言】青年団や郷友会の人材活用(認定ガイド登録)。住用の既存施設に来訪者と集落を繋ぐ機能を。

遺産地域に近い集落に住まれる山田さんのご意見から、住民目線で議論を展開させました!



C班



A班

3つの班の意見をまとめてみると・・



奄美市政策アドバイザー・岩浅有記先生の解説より（事務局まとめ）【1/3】

こんなに変わった！コロナ前後での価値観の変容

BEFORE

安価

低賃金、サービスの質の低下、
安全上の問題も懸念

団体

観光資源へ負荷が大きい

短期滞在

他人事>>>当事者

一度きり

自然・文化・地域コミュニティを
守ろうという考えに至らない

いつでも・どこでも・誰でも

消費型観光

マストツーリズムには経済的な恩恵と引き換えに
環境汚染や自然破壊等の課題が

AFTER

高価格

あらゆる資源の持続可能性
にとって重要

少人数

観光資源へ負荷を軽減

長期滞在

他人事<<<当事者

リピーター

何度も訪れたくなる
→薦めたくなる（口コミ）

会いたい

明確な目的がある

今だけ・ここだけ・あなただけ

持続可能な観光

サステナブルツーリズムの現状維持
の意味合いからさらに発展させて

さらに

再生型観光へ

回復・再生を意味する
リジェネラティブツーリズムへ



奄美市政策アドバイザー・岩浅有記先生の解説より（事務局まとめ）【2/3】

○安売りとの決別！

- ・賃金にしわ寄せ・下等競争によるレベル低下
- ・ボロボロの道具・施設→魅力低下（安全性も懸念）



○見逃しているものが実は宝！

- ・地元住民は「何もない」と言うけれど・・
- ・外から見ると意外な見え方が！



○地域内外の視点で宝探し！

- ・儉約志向だが本物にはお金を惜しまないフランス人に認められたら本物、なんて指標も！

（プロダクトアウト）

（マーケットイン）



○生産者志向から消費者志向への転換！

- ・「良いモノなら売れる！」頑固な職人氣質もいいけれど、市場を意識した「売れるものを作る」も重要な視点。ニーズとのずれがないか意識を。



○利用ルール（上限人数等）の設定！

- ・オーバーツーリズム対策や質の高い自然体験の提供の一環として金作原や三太郎線で実施中。
- ・地域で熟議を尽くして合意形成を！



○再生にお金が回る仕組みを！

- ・現在「世界自然遺産に関する新たな財源創設検討委員会」にて協議中。基金の創設も有効。



地域目線で捉えた高付加価値化

岩浅先生が認める奄美の強み！！

●世界の奄美

- ・世界が認めた価値→唯一無二・固有・多様な自然と文化がある！
- ・遺産登録時の推薦書に記されている。読みやすくして共有してみてもいい。

●自然との連続性・一体感

- ・これは欧米にはない価値観！日本ならではの、奄美ならではの！
- ・“自然”だけでは訴求力は不十分。文化・人との一体感で価値が高まる！

●豊かでしなやかな地域コミュニティ

- ・すべての人に公私の役割があった。
- ・離島という環境の中で、災害など必ずしもいいことばかりではなかった中で助け合いながら生きてきた人々の歴史。
- ・限られた資源の中で培われた伝統や知恵は体験の価値がある。

●「共に」共生・共有・共感・

- ・今でいうシェアリングエコノミーのような生き方が根付いている。

◎ 本物の 奄美の暮らしと文化を体験する

◎ 既存の価値観に囚われない

- ・コロナを経て価値観は大きく変化している。
- ・「離島だから」「空港から遠いから」「二次交通が不便だから」悪いところを探して気にする必要はない。
- ・“そこに行く目的”さえあればどんなに不便でも必ず人は来る。

◎ 議論を深めて計画を立てよう

奄美市政策アドバイザー・岩浅有記先生の解説より（事務局まとめ）【3/3】



【コアメンバー朝木さんからの質問】

“人”や“文化”の素晴らしさを伝えたいと思うが、人々の生活を商業的なコンテンツにすることを嫌だと感じる方もおられるのではないかと葛藤しています。「我々の日々の生活」と「来てもらいたい、感じてもらいたい、体験してもらいたいという思い」をどのように繋げていけばよいのでしょうか。



朝木さん



岩浅先生



非常に本質的な問い。明確な答えをすぐにお示しすることは難しく、どうあるべきかということにはまさに地域の皆さんでの熟慮を尽くすことで見えてくるのではないかと。

さまざまな側面があるかと思うが、商業的になりすぎて本物ではなくなる、という懸念。お祭りなどで“観光客のためのお祭り”と化しているものが散見される。適度な距離感やルールづくりがポイント。

他の地域では神輿の担ぎ手不足の解消として観光客にお金を払ってもらって神輿を担いでもらうという、双方にとってよい取組事例がある。地域の状況によって異なる最適解がある。

自然保護の観点では“自然でお金を取るのはけしからん”“自然を食べ物にしている”という意見があるが、現役世代の視点に立つとお金を稼ぐことはとても重要。“自然を食べ物にしている”のではなく“生活に繋がっている”のである。基金を創設するなどして利益の一部を自然環境の再生の原資にしっかりと回していく。こうした仕組みづくりをしていけば乗り越えられる問題である。

本物の自然・本物の文化をいかに残していくかという大きな問題に対しては、地域側も誰でもいいから来てくれという考えではなく“あなただけに来てほしい”という思いで信頼関係を築き何度も通ってくれる友人を得られるかが重要。そうすると次はこれを見せたい、という気持ちになる。信頼関係やお互いがリスペクトし合える関係構築の中で定まっていくものと考えている。

【最後に】岩浅先生が皆さんからのコメントから考えたこと

- 副業ではなく複業（元々そう） 公私・命の人間の経済
- エコツアー、高付加価値の持つ意味を考える
- 地域の総合産業である新しい観光業
- 雨のコンテンツ（リトリートやウェルネスとどう結びつけられるか）
- リスペクトと良い意味でのプライド



馬場座長

本公民連携会議はテーマとして「世界自然遺産を目的とした来訪者の満足度向上」といただいています
が、その中で“**公共性**”は重要な視点です。公共として何を支援すべきか(民業のどこをサポートするの
か、文化をどこまで包摂するのか)、何を推進していくべきなのかということが解決策の方向性のひとつで
あるかと思います。

本会議での議論はこの第2回までとなり、第3回は過去2回の議論を踏まえたうえでのまとめとなります。
最後に話しておきたいことや公共としての視点でのご意見などを皆さんからいただきましょう。

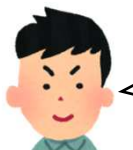
◎皆さんのコメントからも大きな気づきがありました!

山田さんの「観光客との交流の機会が少ない」とのお話は重く受け止めました。**地元住民が世界自然遺産の価値や良かったなと実感できるように、行政として観光客とのふれあいの機会を創出する仕組みづくりや意識啓発に取り組んでいけたらと考えます。**

岩浅先生のお話にあったように、今後「サステナブル」から「再生型」へさらに発展していくためには地
元住民の力だけではなく観光客の力を活用していくことが人口減少社会では必要と感じました。**観光客の力を借りながら地域を活性化し、さらには利益を生み出すということへ一過性の支援ではなく持続的に住民の皆さんが協議・意思決定できるようにしないといけないと感じました。**



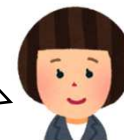
廻さん
(行政)



朝木さん
(市議会)

岩浅先生のお話を聞いて、**ユネスコの推薦書の内容をぜひ島の皆さんと共有したい!**と思いました。
地元と観光客の共通認識として、**お互いがリスペクトし合う関係構築**が一番大事で、シマの魅力を存分に
発揮し、体験していただけたらと思います。世界が認めた奄美、世界の奄美ですから、**世界に誇れるふる
さとだと住民お一人お一人に実感していただくことから始まるのではないのでしょうか。**

観光客の皆さんに満足していただくためには奄美観光の付加価値を高めて**観光業の皆さんの賃金を上
昇させることで人材不足を解消**することが重要です。お金はとても大切。観光の質が向上することで来訪者
の満足度も高まります。また、子供達は遺産の素晴らしさを学ぶ機会がありますが、我々**大人が学べる機会
を創出**することも大切かなと思います。



恵さん
(商工)



観光業に従事していて**人材不足を実感**しています。恵さんと同様に賃金の上昇が重要と考えます。やはり奄美の魅力は自然。海、山、川！ナイトツアー、金作原、マングローブなどたくさんのエコツアーがあります。ガイドの立場から、**ツアー料金の中に奄美の動植物を保護するための環境協力金**のようなものをいただいて活用するのはいかがでしょうか。そうすることで**ガイドの中に自然保護に一役買ったという意識が芽生えて**、奄美観光の高付加価値化に繋がるのではないかと思います。

観光客とガイドだけが繋がり、地元住民との繋がりが無いというお話がありましたので、**集落行事等観光資源の担い手の方等へも恩恵があるような仕組みづくり**が大切かなと思います。

マングローブパークとして何でも協力しますのでぜひお声がけください！

普段は国立公園や遺産地域等の管理をしていますが、こうした話し合いをする中では区域にこだわる意味はなく、まさに**島全体が遺産と呼ばれる価値がある場所**であり、森だけでなく海も含めて全体が第一級の素晴らしい自然が広がり、**生き物たちが凝縮**されている場所です。

この価値を生かし、満足度の向上と地域の経済に繋げていけるかを考えたときに、岩浅先生のお話にあったように**見逃しているものをいかに可視化するか**というのは大事な事かなと思っています。例えば、奄美は非常に**雨が多い**場所です。ふつうは雨が降ると野外の活動ができないと残念に思いますが、“なぜ遺産になったか”という観点で考えると雨はひとつの大きな条件となっています。これを踏まえると、雨をゆっくりと眺める時間も非常に贅沢ですし、奄美でしか味わえない時間になることでしょう。このように**“奄美ならではの”部分を見ていただくためのさまざまな「見せ場」**があるといいなと感じました。



この会議体を所管する立場から皆様方に感謝申し上げます。行政の立場から、たくさんのことを包摂して取り組んでいかないといけないと考えています。皆様からのご意見がありましたが、**島に住む人々や企業がどれだけ世界自然遺産の価値を理解・実感し、地域に誇りを持てるか**ということが大切だと思います。こうした機運が醸成された状況が続けることで、観光客の皆様はそこに感動し、世界自然遺産の島として位置づけられ、なお一層、遺産を目的に来訪される方が増えるのではないかと思います。そういった状況を作るためには、皆さんがおっしゃったように住民への**環境教育の機会や自然とふれあえる機会を創出**することが重要かと考えます。こうしたことを意識しながらさらに議論を深めていければと思います。



久留さん
(住民代表)

こういう場を重ねていくことで形が見えてくるのではないかなと思いました。どんな場所へ行っても旅をする中で思うのは、人と出会いふれあったことでふとしたときに「また行ってみようかな」と思うことがあります。最後に残るのは“あの人に会いたい”ということだったという旅も多いかと思います。琉球弧に位置する奄美の人々には『稀れ人信仰』というものがあり、稀に来る人は神様だ、という文化があります。だから“お客様が来たらもてなす”というのはもはやDNAに組み込まれているのだと思います。今回の会議を経て、今後も私は世界自然遺産の力を借りて、私なりの立場で地域経済に寄与していきたいです。

先ほど広野さんのお話の中で奄美は雨が多いとありましたが、私も友人や観光客の方々からよく「奄美は雨が多いわね」と言われることがあります。そのときには「奄美の豊かな森が年中みられるのは雨のおかげ。奄美はミストの島。たまにはミストの島・奄美の雨の中で過ごしてみませんか」と伝えます。するとその言葉を聞いてから奄美が好きになった、と言ってくれる方もいました。ミストの島・奄美を広めていきましょう！

—他の方から「“遺産の雨”もいいですね！」との感想が！

現在高付加価値なツアー商品の検討に関わる中で山田さんと同じようなことを感じていました。住民が観光客と出会う機会が少ないということについて、宿が住民と観光客をつなぐという重要な役割を担っているのではないかと考えています。宿の方やフロントの方が観光客と話をしながら「ここがいいよ」「ここが美味しいよ」「今日はここに寄るといいよ」などいろんな情報を提供していましたが、最近は一棟貸しの宿が増えていて、観光客が宿の方とふれあう機会が減っているなあと感じます。宿の方は地域の中で観光業を営んでいるので、地域の方と観光客をつなぐ役割を担ってもらえるようにできたらいいのでは。龍郷町の民泊での取組に注目しています。住用も民泊に力を入れている地域だと思っていますので、今日山田さんのお話を伺って、住用の民泊に対し支援をしていってはどうかでしょうか。具体的には勉強しに行く機会を作る、龍郷の民泊の方と話し合う機会を作るなどです。新しく宿を建てるのではなく、すでにある民泊を生かしながら、地域の中で「あなたもやってみようよ」と誘ってみたりして広がっていけば、地域と観光客をつなぐ重要な役割を担う宿という存在がふえていくのかなと思いました。



山下さん
(観光協会)



山田さん
(住用代表)

私はこの奄美大島が世界自然遺産の島になったということで、堂々と胸を張って歩けるようになりました。なぜかという、国内に5つしかないくらいにすごいことなんです！学生時代は東京で「奄美は水道から水が出るの？」なんて聞かれたりもしましたが、今は世界に認められたのです。

今は世界遺産になりましたが、そのメリットをまだ住民は感じられていません。これから感じられるようにしていかないといけないですね。

この奄美大島は伝承文化があるからこそ、自然が守られたのではないかと思います。八月踊りはどの集落にもあるけれど、これを引き継ぐ方が少なくなっています。私は川内集落で公民館講座として実施し、もう5年目になります。幼い子どもから50歳代まで参加しています。この八月踊りを観光客の皆さんにどのようにして教えたらいいのかと。せっかく奄美に行ったのだから体験してもらいたいし帰った後も話題にしてほしい。そうなると思いが深く刻まれだんだん交流が深まってくると思います。宝の持ち腐れではなく、みんなに広めていって、奄美大島をもっともっと活気づけてもらいたいと思います。

今はもう東京の方に奄美大島と言ったら「ああ奄美！世界遺産になりましたね」と言ってくれます。世界中に広げるには文化が一番です！交流があつてこそ、ですので文化交流を進めていきたいと思います。

ひとつ残念なことと言えば、英語が話せないこと。外国からたくさんの方が来てくれて、案内することがありますが、英語で意思疎通ができません。身振りやクロウサギのまねをしてみたりして伝えています。せっかく来てくださったのだから、思い出を多く作ってほしいと試行錯誤しています。山にも所有者がいたりルールもあつたりしますが、奄美に生まれた人は“奄美大島の山だ！”という大きな気持ちで奄美の自然の魅力を宣伝しましょう！みんなが笑顔で過ごせる島にしていきましょうね。

住用に宿泊施設が何件もあり、その方々に話を聞いてみると宿泊客はいるけれど宿の方が島のことを説明をしている様子は見受けられませんでした。外国からの観光客などは特にですが、伝えていくのは私達住民の役目ではないかと思しますので、今度の区長会の中でも話して広げていこうと思います。



倉橋さん
(民間企業)

私は福岡出身で、転勤で奄美に来て奄美在住3年目です。みなさんの視点とは少し異なる、**観光者の視点**からお話しします。私の会社には奄美に何度も来ていて、奄美が大好きな方がたくさんいます。初来島時にはマングローブパークでカヌーをして夜はウサギを観に行って、海が好きな方はマリナクティビティを楽しんで、というのが初心者の楽しみ方。**何回も来るようになると「島の方とふれあいたい」という思いがとて強くなり、宿や夜飲みに行ったときなどにとても温かいもてなしをしていただいたところに奄美ならではの良さを感じて帰るという方が多いと思うんですね。**皆さんからもありましたように、奄美の方々は外の方が思っている奄美の魅力に価値があるんだということを認識されていないと感じます。もっと奄美の良いところを自信を持って発信していけたらいいのではないのでしょうか。

もうひとつ思うこととして、来訪者に対してもてなす気持ちが強いあまり「お金はいいから〜!」ということが奄美ではよくあると思いますが、外から来る身としては全くお金を払わないことによって**遠慮の気持ち**が生まれますし、奄美が好きな人は奄美の役に立ちたい!という思いがあります。自然を維持することや文化をつないでいくことにはお金がかかるのは当然のことなので、少しでもお役に立てればという気持ちを持っている方はとても多いと思います。これからの人口減少社会においても奄美の宝を次の世代につなぎ観光客が増えていくことで奄美の自然や文化を維持することに少しはお役に立てるのではないかなと思っています。**宿泊税なども遠慮なく**とっていただいていいと思いますよ!**奄美が永続的に栄え、何度も遊びにいけるほうが嬉しいんですよ😊**

今日話題になった商工・観光・情報を所管する部署を行政で担っていますので、参考になるお話をたくさん聞かせていただきありがたかったです。たくさんメモしました!

住民の方々は「雨の日に遊ぶ場所を作してほしい」とおっしゃいます。**都会の人は奄美に自然を求めて来られるのに対し、住民は都会を求めます。このギャップをどうやったら埋められるのか、考える日々です。**

昨今は物価が高騰して市内の事業者の皆さんは大変だと話されます。値上げをするとお客さんが来てくれないかもしれないから物価が高騰した分を価格転嫁できない、とのこと。しかしそうではなくて、**高騰した分は転嫁し、そこに付加価値をつけて納得感が得られ、満足してもらえるようなスペシャリティなものを奄美として何が提供できるかを考えていけたら**と思いました。今後我々にできることを担当課・職員と共にいろいろな方の意見を聞きながら進めていきたいと思っています。



麻井さん
(行政)

●馬場座長は悩んでいた・・



「世界自然遺産を目的とした来訪者の満足度向上」というテーマだが、データ分析をしてみるとすでに観光客の満足度は高い。うーん・・
ロイヤルカスタマー（奄美大好き・奄美ファン）のロイヤルティ（関与度）を向上させ、WTP（支払意思額）を増やす政策について検討するか。

→ 当初は**来訪者に特化した、閉じた観光政策提案**になると思っていた・・

第1回会議

コアメンバーから出てくる意見の

公共的な概念が深かった！



- ・世界自然遺産と観光客の関係性
- ・世界自然遺産と奄美市民の営みの関係性
- ・奄美市民と観光客との関係性

→ **「関係性」**が新たな価値を生む

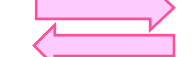


奄美・沖縄
世界自然遺産

唯一無二の地域資源

「価値創造の源泉」

豊かな恵み



保全・継承

共同体
＝
関係性

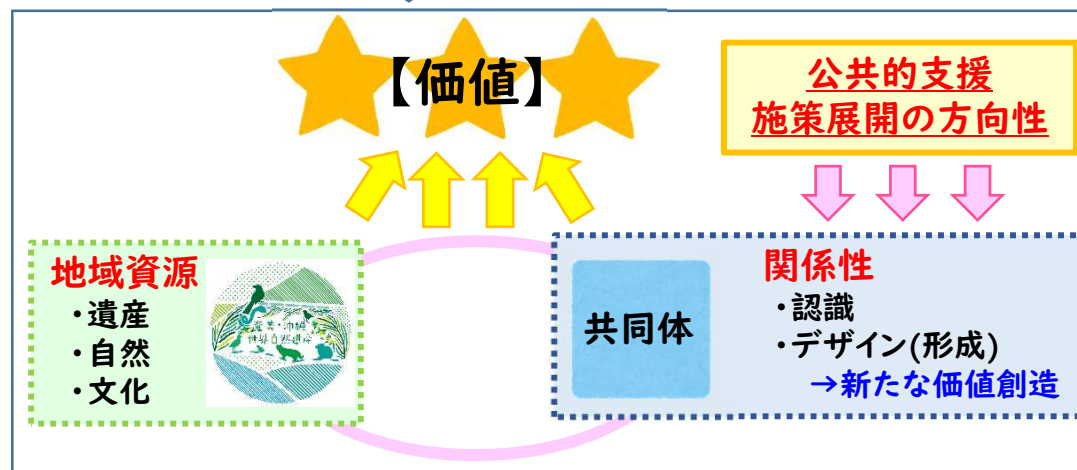
関係性自体が地域資源

「新たな価値創造」



新たな価値を生む**あらゆる関係性の形成**に公共としてどういう施策を展開できるかを探っていこう！

第2回会議を経て・・



関係性の形成は目に見えないものをデザインすること。公共政策に要求されるKPI(定量的な成果)が見えづらく難解ですが、ここを支援することはとても重要であり、チャレンジする価値はあると考えます！



馬場座長

世界自然遺産の自然や文化などの地域資源が与える恩恵は人々の暮らしや共同体を豊かにし、共同体の中で生まれたあらゆる関係性はそれ自体が地域資源となり、自然や文化から恩恵を受けるばかりではなく、保全・継承する役割を担い、相互に作用しながら価値を生み出すエコシステムを形成していることが見えてきました。

世界自然遺産の価値は奄美の人々の存在なしには語れません。さまざまな関係性が創造する新たな価値こそがまさに「世界自然遺産を目的とした来訪者の満足度向上」の鍵となります。

次回の第3回が最後となりますが、最後の最後までがいていい提案にまとめあげますので、お付き合いのほどよろしくお願いいたします!!



皆様のご意見・想いが
宝です。引き続きよろしく
お願いします!!

Copyright (C) Amami City All Rights Reserved.